

令和6年度第2回安城市総合教育会議

日 時 令和7年2月13日（木）
午後3時から午後3時55分
場 所 教育センター2階 会議室
出席者 市長 三星 元人
教育委員会 石川 良一 教育長
加藤 滋伸 教育長職務代理者
久恒 美香 委 員
深津 敦司 委 員
中村 沙織 委 員

出席する職員	横山 真澄	企画部長
	原田 浩至	企画部行革・政策監
	神谷 徹	教育委員会教育振興部長
	加藤 浩明	教育委員会生涯学習部長
	鈴木 淳之	企画部企画政策課長
	久野 晃広	教育委員会総務課長
	鳥居 貴之	教育委員会学校教育課長
	大見 徹也	教育委員会生涯学習課長
	徳田 晴美	企画部企画政策課課長補佐
	橋口 淳	教育委員会学校教育課課長補佐
	神谷 高典	教育委員会生涯学習課課長補佐
	杉本 慎吾	教育委員会総務課庶務係長
	稲垣 創一	企画部企画政策課企画政策係専門主査

傍 聴 者 4名

次 第

1 開 会

2 市民憲章唱和

3 あいさつ（要旨）

【市長】

教育委員の皆様には、日ごろから安城市の教育行政に多大なる御理解と御支援を賜り、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

本日の議題は「コミュニティ・スクールの現状と今後について」である。

コミュニティ・スクールは現在2つの学校で準備を進めており、この4月から本格的な運用開始を予定している。このコミュニティ・スクールについて、現在の進捗状況を共有するとともに今後の運用等について意見交換をさせていただきたい。

【教育長】

日頃から教育行政への力強いご支援をいただき感謝する。

学校現場における子ども達の周辺で発生する問題、トラブルがコロナ禍以降大きく変質しており、大人の問題が子どもに反映しているように感じられる。

子どものものの見方や考え方などは身近な大人の影響を受けており、そのことが問題行動や子ども同士のトラブルの大きな要因になっていることを感じられるような事案が最近頻発している。

国の調査ではコロナ禍以降、不登校児童生徒が急増しており、少年犯罪や自死も増加している。

多種多様な考え方や表現など人格形成につながるような機会が減少しているなか、コミュニティ・スクールを通じて異なる世代や立場の人々に関わる機会を作ることは大きな意味を持つ。本日は様々な視点から意見交換がなされることを期待している。

4 議 題

議題（１）コミュニティ・スクールの現状と今後について

（学校教育課長説明）

【市長】

ただいまの説明に対してのご意見、ご質問等をいただきたい。

【久恒委員】

想定以上に多くの学校がコミュニティ・スクール化を希望した場合、予算と人的資源を元に対象校を決めていくということで良いか。

【鳥居学校教育課長】

希望が多くなりすぎた場合、学校の実情を鑑みながら、予算等の調整を図っていきたい。場合によっては順番をつける必要があるかもしれないが、各学校の気持ちの高まりを大事にしていきたい。

【深津委員】

コミュニティ・スクールの理解はまだ進んでいないと感じられる。
学校はセキュリティ上の理由もあり閉鎖的になりがちだが、先生や子どもたちと保護者や地域の方々との互いの顔が見える雰囲気づくりが求められる。

コミュニティ・スクールを通じて、地域の人々が参加し、学校をより良い場所にするためのシステムを構築することが重要である。

【久恒委員】

不登校や学校に行きづらい子どもたちの増加が懸念されており、ふれあい学級や保健室登校などの施策が必要とされている。コミュニティ・スクールもそういった子ども達の受け皿になれるのでは。

学校内で様々な場所を利用した居場所の確保や地域の人々の見守りによって、子どもたちが安心して交流できる環境ができると良い。

【市長】

子ども達にとって必要な居場所の確保についてはしっかりと対応させていただく。

【鳥居学校教育課長】

コミュニティ・スクールの部屋も子どもの居場所になりえる。学校の中でありながら、学校関係者ではない地域の方がおり、先生には話しにくい話でも地域の方であれば話しやすいなど、子ども達の安らぐ場所の一つになれば良い。

【加藤職務代理者】

コミュニティ・スクールという言葉は理解が難しい。地域の方への説明をはじめ、市広報により周知していくのは良いと思う。

人間関係が希薄になってきて、地域の人たちも昔ほど子どもたちを育てていこうという気持ちも少なくなってきた中で、このコミュニティ・スクールはいい考え方だと思っている。

問題はいかに地域の方々に理解していただくか。

皆さんで話し合って、自分たちの周りにいる子ども達をみんなで育てていけるような学校になっていくと良い。

【市長】

私の地元の桜井地区においては地域コミュニティが比較的健在であり、地元の人たちには、おらが学校という意識はまだまだ残っているため、桜井中学校でのコミュニティ・スクールはうまく出発できると期待している。

また、顔が見える関係こそがコミュニティ・スクールを進めていくにあ

たつての一番の肝と考えている。先生方の負担が非常に重くなっていく中で、地域でやれることはまだあるというところを地域が示し、学校と地域がお互いに助け合い、いかに役割分担していけるか。

地域で実情が違うため、学校運営協議会において自分たちの地域にとって最も望ましいコミュニティ・スクールの姿とはどうなんだろうかというところをしっかりと協議していただき、地域に根ざした最もふさわしい姿でのコミュニティ・スクールを作っていっていただきたい。

【中村委員】

現場の先生方がコミュニティ・スクールにより仕事が増えるのではないかと心配していた。助けられることもたくさんあるということを先生たちがまず理解して、安心していただけると良い。

【鳥居学校教育課長】

学校運営協議会のような会議をやるとなれば、全部学校が運営するのかと考える教員は多いと思う。地域への浸透とともに、教員へいかに浸透できるかということも大きな課題だと思っている。

5 そ の 他

6 閉 会